

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童デイサービスゆいすぽⅡ		令和8年 3月 12日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	2	屋上や駐車場、室内の3つの場所でスペースが確保されている。 人数が多い際は場所を分散させるなどし、適切なスペースを確保している 極力、壁に物を寄せる事で中心を広く使えるようにしている。 個室や仕切りを利用して個別支援に必要な環境を整えるスペースがある。 ゆいすぽ敷地内の広場や、自治会館等の地域資源も活用している。 日課や活動内容に応じて適宜レイアウトの変更を行っている。	音に対して過敏な子に対しては、配慮が必要な時がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4	2	全員受け入れができるように、職員同士で協力できている。 適切な運営がなされている。 人数は多めに配置されている。	基準人員は見てしているものの、個別支援をもっと手厚くするために増員を予定。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	どこに何があるのか、わかりやすい間取りになっている。 入室から導線確保、活動の切り分けや切り替えのための構造化が可能で環境上の配慮が適切である。 パーテーションやロッカー等で動線を調整している。 電子機器を使用した情報提示や画像の提示を行ないながら説明している。	設備等は障害への配慮が可能ではあるが、収納が足りていないと感じる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	清掃を毎日行っている。必要に応じて活動、場所の変更分散を行っている。 清潔に保たれている。 アルコールによる除菌を適宜行なっている。	職員だけでなく利用者にも清潔に保つ手洗いや、玩具の整理整頓を促している。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	パーテーション等を活用し個別の空間を設置。 個室や仕切りを利用して必要に応じた環境設定が行うことができる。 児童本人が希望する空間を使える様に調整している。 別の部屋がない為、パーテーションを使ってスペースを作っている。 個室が無い為、ついたてを用いて個別の空間を確保している	音に対して過敏な子に対しては、配慮が必要な時がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	朝礼、活動ミーティングの際に振り返りを行い職員同士で状況を共有する場が設けられている。また児童が来所前に再度、細かい調整を行っている。 何かあれば、周りの職員と話し合い共有することは出来ているように感じる。 ケース会議などを通して振り返りと今後の方針について共有が図られている。 適宜、マーティングを行っている。 日常の活動から課題抽出をして、職員間で話し合う機会が多いと感じる	毎月1回程振り返りの機会を儲けても良いと思います。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	定期的に話し合いが設けられており、話し合いは下にもおりにてきている。 保護者からの意見は現場で共有している。 児発管より保護者の意向を伝える場面があり、業務改善の話し合いを行っている。	保護者の意見と利用者の現状を踏まえた支援方法を自発管から現場職員に伝えている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	昼食時間など、雑談を兼ねて改善点など話あう時間を設けている。 日頃から役職者との個人面談を行う機会があり、職員の意見を聞き取って検討、改善に繋がっている。 活動内容や支援方法など、様々なミーティングを行っている。	ホームページにて公開している
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5	検討中	検討中。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	オンライン研修を受講できる環境が整っている WEB研修システムの導入や児発管からの講和により研修機会が設けられている。 地域の研修のみならず、オンライン研修も積極的に取り入れている。	研修時間の確保ができるよう、業務内容を調整している。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	管理者と児童発達管理責任者によりプログラムを作成しており、職員にも公表されている 適切に公表しており、相談も適宜対応している。	ホームページにて公開している。

適切な支援の提供	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	管理者と児童発達支援管理責任者によりアセスメントが丁寧に行われている。日頃より保護者との情報共有を大切にしている。 適宜共有を行なっている。	モニタリングを通して、保護者、こどもの意見を計画書に反映している。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	計画書を作成する前に、職員間で対象児童に対するモニタリングを実施している。 適宜ミーティングを行っている。	自発管と、支援について振り返りを行う機会が持ちやすい環境を整えている
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	日頃より、児童の課題について話し合う機会を設けている。 適宜、スーパーバイズを受けることができる。	計画書を見ながら、その意図や支援方法を伝えている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	相談や支援方法の確認を適宜行っている。 業務日誌のオンライン化で各職員が状況把握する事が出来る。	現場職員でも行えるよう、検討中。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	家族や関係機関の状況についても共有を行っている。	日々の聞き取りを関係機関を含めて行なっている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	毎月、次月の予定をスタッフ全員でミーティングしている。 支援内容や日課活動ごとに担当者を決めて取り組んでいる。	月あややその日の事前打ち合わせを行なっている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	新しい遊びや、地域のイベントなどを取り入れている。 昨年の日課活動を参考に、内容が重複しないように話し合っている。	様々な活動を選択できるように工夫している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	その日の児童の様子を踏まえ、個別活動、集団活動を組み合わせている。 内容の精査と変更を適宜行なっている。	状況に合わせた個別支援も対応出来るよう、事前の打ち合わせや場面想定を行なっている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	業務開始時にミーティングを行っている。	前日や当日の朝に打ち合わせを行なっており、各々の役割を確認している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	必要に応じて適宜行っている。	終了後には振り返りを行いながら、児童の状況や家族の状況についても共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	外部のシステムを導入して対応している。	日誌やケース記録を行なっている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	適宜行っている	定期的にモニタリングを行いながら、児童の課題展や支援方針を調整している。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	適切に運用している。	基本活動に囚われず、様々な活動を取り入れられる柔軟な活動プログラムを要旨している。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	児童の調子に関しては、日々変動があるため、調子が悪い日は自己決定を活動の選択肢に入れている。 またルーティンがある児童もいるため、職員と児童とで今日の流れの確認を行う場合もある。 複数の活動を用意した上で、児童の意見を尊重して選べる様にしている。	自己決定を行うための配慮はしつつ、選択肢にない活動でも、可能な範囲で行えるよう対応している。
関係機関や保護者との	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児発管クラスの職員が対応している。	児童発達支援責任者が参加。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	役所や児童相談所、地域の学校なども連携して取り組んでいる。	関係者会議を行なっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	適宜連絡を取り合っており、協力して対応している。 トラブル発生時も職員間で連携し臨機応変に対応できている。	学校との連携や連絡調整は日々行なっており、特に支援が必要な児童や家庭においては、担任と連絡を取りながら対応している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	分からない要望があればいつでも対応している。	幼稚園や保育園の段階から関わり、園の先生と情報共有を行なっている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1	学校を卒業し障がい者福祉サービス事業所へ移行する児童がまだいない。今年、高校三年生がいるため、卒業前に連携会議を予定している。 必要な情報は常に発信し、要望に応じて相談の場を持っている。 進級、進学前に連携会議を行なっている。	必要な情報は状況に応じて随時対応している。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	適宜参加している	地域の児童発達支援センターや各専門員と連携を取りながら対応している。

連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	0	地域の児童館や運動公園、体育館などで交流を持つことがある。 児童館に行くようになり、地域の子も達とコミュニケーションを取れる機会が増えてきている。 週に1回程度、地域の児童館を利用し、地域の子供達との交流を図っている。	地域の公園や広場等の施設を利用することで交流する機会を作っている。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3	わからない 基本的に参加している。	可能な限り参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	個別に相談窓口を作っている。 ラインなどのSNSを通して日頃から情報共有を行っている。	保護者とお共有は重視している為、必要に応じてすぐにも方に面談の調整をしている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	個別に相談窓口を作っている。 ラインなどのSNSを通して日頃から情報共有を行っている。	保護者に対する助言等は日々行なっているが、直接研修する場合もある。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	何が課題で、どのような療育が必要で、どのような支援をするのか丁寧に説明している。	お知らせによる発信を行なっている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	児童や保護者の合意を持って対応している。	こどもの利益を優先して、家屋の意向も確認できるよう療育相談の際は意識している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	適切に運用している。	契約や、更新の際、計画書の読み合わせを行い同意した上で、署名をもらっている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	適宜応じている。	日々、療育相談を受け付けており、必要に応じてこちらから面談の申し出も行なっている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	5		開催については保護者から反対の意見もあるため、検討中。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	適切に状況説明できる様にしている。	苦情等があった場合はすぐに現場で共有し、随時対応している
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	InstagramやFacebook、ホームページなどを活用している。	翌月分の活動予定を発信して知らせている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	適切に取り扱っている。 家庭の事情で写真の公開が出来ない児童に関してはほかしやスタンプで顔を隠すなどの配慮を行なっている。	事前に同意書をもらいその範囲内で運用している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	適切に運用している。	絵カードやジェスチャー筆談も行なっている。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	6	相談窓口を地域に周知し、対応している。	地域に向けて療育相談や発達障害に関する講話を実地。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	訓練も適宜行なっている。	マニュアルを各種作成し、職員のファイルを保管している棚に合わせて保管している。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	定期的に火災、津波、地震の避難訓練を実施。 一つにファイリングして、見やすい様に設置している。	年に2回以上訓練を実地。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	予防接種は確認していない。 保護者の申し送りを適切に受けている。	事前のアセスメントを記入してもらい、その中に服薬等の項目を設けている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	食物アレルギーの児童がいない 現在アレルギーの児童がいないため、該当せず。 現在対象者がいない為	現在アレルギー対象者はいないが、必要場合は随時対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	適切に運用している。 ヒヤリハットのケース会議を行なっている。	危険な箇所はないか日々の事前の打ち合わせの際に、確認をしている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	家族と送迎時の連絡を密にしている。	怪我や急雨病が出た際には迅速に対応出来るよう、保護者の了解を得て携帯番号や職場の連絡先を控えている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットファイルを設置している。	事例発生の際には、報告と合わせて報告書の作成を行い、共有している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	外部研修にも参加している。	虐待防止研修を年に一回必ず実地している。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	取り押さえなければならない様な状況を作らない様に支援している。	身体拘束の三要素についてはしっかり周知しており、職員のみならず保護者にも伝えて同意を得て、記録も必ず残している。